

3年目迎え、学び合う場に越谷の「りんごの木」

越谷市千間台西に開設された民間のフリースクール・りんごの木が三年目を迎え、少しずつ地域に定着してきた。運営するのはNPO法人（特定非営利活動法人）越谷らるる。市内初、そしてNPO法人運営としては県内初のスクールとして平成十三年四月に開校した。現在、小学生の年齢の7歳から20代までの二十四人が通っている。どの子もいじめなどで正規の学校に登校しなくなっていたが、今は通信制高校に通うなど勉強を続けており、「ここ（りんごの木）は、楽しい学びの場だ」というのが共通する意見のようだ。



ゲームを楽しんでいる子供たち（りんごの木で）

自分で考え、行動に

フリースクール 勉強もマイペースで



電子ピアノを楽しむ子供たちもいる

越谷らるるは平成四年に市民有志が集まってできた地域の教育を考える住民の会。以前から不登校の子が通う場を作ろうと「フリースペース・りんごの木」を開設し、学びの場を提供してきた。このフリースペースを発展させたのがこのフリースクールだ。不登校の子供や学校を中退した若者に年齢の近い仲間と出会い、活動し、学びあう場を提供するのが目的。

「開設した年はただ、忙しく過ぎて行きました。積極的に地域に出て、千間台の夏祭りにも出させてもらいました。フリースクールを成立させるのは地元の理解が大切なのだとということ

伝ってました」と。

がよく分かった」と振り返るのは同フリースクールの事務長の増田良枝さん。

同スクールに通う18歳の男性は、小学校二年生でいじめに遭い、不登校になった。中学生になって二、三日は通ったが続かず、越谷市教委が運営する不登校の生徒を勉強させる「適応学級」に通うことになる。三年間通い、高校にも入学するが、どうしても適応でき

ず、すぐに退学した。退学して「りんごの木」を知り、「面白そう」なので通うことになった。今では通信制の県立高校二年生だ。男性は「ここなら勉強もできるし、自分のリズムで進められるのが楽しい。将来はカウンセラーになりたいので大学進学を目指します」と目を輝かせる。

16歳の女性も小学校で容姿をからかわれ、いじめに遭い不登校になった。昨年、高校に入学したものの「人が怖い」と、一か月で退学した。その後、りんごの木を知り、通ううちに「ここは、自分の痛みがわかる人ばかり。話が合うし、フリースクールは楽しい。これからは自分のペースで勉強ができる」と声をはずませ

る。フリースペース時代から通っている増田雄介さん（20）は、県立大宮中央高校四年生。現在、同校野球部主将。高校生活最後になる今年は「神宮球場で夏に開かれる全国大会に出場したい」と決意も新ただ。フリースクールには週二日ほどしか来ないが「いろいろな仲間と出会えるので楽しい」と笑顔で話す。将来は「スポーツトレーナーになりたい」。来年の大学進学を目指す。

同スクールの一日は、自主学習をはじめ「ピアノを弾こう」「絵を描こう」や、ハイキングなどの野外学習、ミーティング、お泊り会、テニス、習字などメニューがあり、多彩な子供たちのペースで進められている。

通う子の共通点は「いじめ」や「不登校」だが、勉強への意欲は高い。事務長の増田さんは「ここに通っている子はいわゆる普通のルートが合わない人。自分をみつめてきた分、他の人より深く生きているのかも。子供たちはいろいろな模索しながら、結局、学びの道に自然と入っていきま

す。親は問題と感じるときがあります。子供は自分で考えて行動、勉強するのだということがよく分かりました。ここの子供たちに出会えて本当に良かった。

大人の意識を変えなければならぬでしょう」と話していた。

フリースクールの問い合わせは、越谷らるる0970・88881へ。